達成度判定は、A(100%-80%)、B(80%-60%)、C(60%未満)

	!	全成及刊足は、A(100/0-30/0)、B(80/0-00/0)、C(00/0本/両)		
		現在の取組及び状況 今後の改善計画・目標		
			判定	
「内容				
全体的な計画の作成 1 保育所の理念、保育の方針や目標に基	づき マジェの心息の祭			子どもや家庭の状況等、全職員で共通理解していく。
達や家庭及び地域の実態に応じて全体		全体的な計画は、保育の方針や目標に基づいて作成している。	Α	た、全体的な計画をPDCAサイクルし、保育の質の向
。 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開				を行っていく。
1 世紀にこれにい相にして フビモギ	こ地上ノ河ブナストのズ	子どもが安全で安心して生活できる環境構成に努めてい		年齢にあった環境作り、安全面への配慮を心掛ける。
生活にふさわしい場として、子どもがきる環境を整備している。	心地よく廻こすことので	る。ヒヤリハット事案を職員間で共通理解し、日々の保	Α	児に危険が無いかを保育士が常に考えヒヤリハットを
		育を見直している。		げていく。
2 一人ひとりの子どもを受容し、子ども	の状態に応じた保育を行	保育士間の会話の中で子どもの育ちや手立てが必要だと		全職員が全園児の実態を把握し、その子にあったかれ
っている。		思われることに関して、個々に応じた保育に心掛けてき	Α	りをしていく。
3 7 12.1 (2)+++44.1 (3.73)+#4.5 (2.7.1)	2 - 1 1 - + 2 mp +	子どもの出来る様になった姿を認めたり、一人一人の育		7.57.4 1.50141 40.44715.44
子どもが基本的な生活習慣を身につけ	ることができる環境の整	ちに合った援助をした。また、生活習慣に関しては家庭	Α	その子にあった援助をし、自分でできるようになった
備、援助を行っている。 		との連携を大切にしてきた。		とを家庭と共に喜び合えるよう家庭支援も行ってい。
4	.#1 711 21 41 41	子ども達から出たアイディアを保育に取り入れ、「やっ		子どもの「やってみたい」という意欲を丁寧にくみ耳
	順し、于ともの生活と 避	てみたい」意欲を引き出せるような環境の工夫をしてき	Α	保育に生かしていく。また、保育士が一人一人と日々
びを豊かにする保育を展開している。		た。また、保育士も一緒に遊びを楽しむことで柔軟に環 境構成を行った。		き合いながら、環境を子供と共に考えていく。
5 乳児保育(0歳児)において、養護と	教育が一体的に展開され	家庭との連携を密にし、一人一人にあったかかわりをし		言葉を掛けたり、スキンシップを図ったりしながら
るよう適切な環境を整備し、保育の内	容や方法に配慮している	、が安心して過ごせるように配慮している。また、安全	Α	関係を育てていく。また、家庭と連携を図り、その一
		に探索行動が楽しめる環境構成を行っている。		あった生活リズムが整うようにする。
		自我の育ちを受け止め、自分のやりたい気持ちを大切に		と 子どもの意欲を大切にし、「やってみよう」「できぇ
	し、保育の内容や方法に	し、保育士の丁寧なかかわりから基本的生活習慣が身に	Α	と、いう達成感を味わえるようなかかわりをしてい
配慮している。		つくような配慮をしている。 子どもが安心して園で生活できるように全職員で受け止		まずは心の安定を大切にし、子供たちが笑顔で過ご・
3歳以上児の保育において、養護と教	育が一体的に展開される	めてきた。しかしながら、泣けてしまう子や不安な表情	_	ようになるためにどうすればいいかを職員全体で考
よう適切な環境を整備し、保育の内容	や方法に配慮している。	を見せる子がいたため、丁寧なかかわりをしていきたい	В	行く。どの子も心が安定し、様々な活動や行事に意
				に取り組める配慮をする。
8 障害のある子どもが安心して生活でき	る環境を整備し、保育の	その子にあったかかわりや環境構成を整えることで、安		園職員でその子の特性を把握し、その子にあったか:
内容や方法に配慮している。		心して過ごせるようにしていた。また、全問機関への相	Α	りをしていく。また、専門機関と連携を図り、助言、
<u> </u>		談なども行ってきた。 朝保育、夕保育では異年齢が交わって保育している為、		談を行っていく。 通常保育から切り替わる際には保育士間での伝達を
それぞれの子どもの在園時間を考慮し	た環境を整備し、保育の	危険や怪我の無いよう配慮してきた。職員間の連携を密	В	かり行い、保育していく。異年齢が交わって保育さ
内容や方法に配慮している。		にし、子供の体調把握等をしっかり行っていきたい。		際には、玩具の設定などに注意する。
10 小学校との連携、就学を見通した計画	に其づく 保育の内容や	年3回の個人面談を行い、家庭での姿を聞いたり、育て		就学に向けて育てたい10の姿を意識し、家庭も同じ
方法、保護者との関わりに配慮してい		たい姿を伝えたりし、保護者と同じ気持ちで子供の成長	Α	ちで子育てを進められるようにしていく。また、研り
健康管理		を喜び合うことが出来た。		知り得た内容を保育に生かしていく。
1		朝の受け入れ時には必ず保護者から体調の様子を聞き、		保護者との連携を大切にし、普段と違う様子が感じ
子どもの健康管理を適切に行っている	•	受け入れを行った。子供の急な体調変化に気付けるよう	Α	た際には担当保育士に伝達する。室内環境を清潔に
		、職員間で連携した。		
2 健康診断・歯科健診の結果を保育に反	映している。	年2回各検診を行った。検診の結果は保護者に伝えた。	Α	指摘されたことやアドバイスを保護者に伝え、子供フ
3 アレルギー疾患、慢性疾患等のある子	ビナニのいて 医師かさ			が健康に過ごせるようにする。
の指示を受け適切な対応を行っている		園児にアレルギー対応の子はいないが、		職員間でアレルギーマニュアルを見直し、
食事	0			
1		夏野菜の収穫やクッキング等を通して食に対する興味関		子どもたちのペースに合わせた進め方で食事を進め
食事を楽しむことができるよう工夫を	している。	を持てるようにしてきた。	В	また、誤飲誤嚥マニュアルを見直し、職員間で周知行
2		給食職員のアイディアで、行事食やお楽しみメニューな		していく。 子供たちが食に対する意識を持てるよう、食育指導・
子どもがおいしく安心して食べること	のできる食事を提供して	和良職員のアイティアで、打事良やお栄しみメーューなどを行っている。また、職員間で連携を図り、クッキン	A	が良に対する息畝を行くるよう、良月拍导が めていく。楽しく食事ができるような雰囲気旁を行っ
いる。		グを行った。		いく。
て支援				
家庭との緊密な連携				
1 子どもの生活を充実させるために、家	 庭との連携を行っている	朝の受け入れ時や帰りの引き渡しの際に園での様子を伝		保護者も子供の成長を楽しみにできるような発信のス
0		えたり、連絡ノート、おうちえん等を利用して、保護者	Α	を職員間で出し合い、保護者と子供の成長を共有で
保護者等の支援		と連絡を取り合った。		ようにしていく。
1 保護者が安心して子育てができるよう	古坪を行っている	どの職員も保護者に積極的に話し合い、相談しやすい雰	А	様々な機会を活用し、保護者にとって相談しやすい
		囲気作りを行ってきた。	A	なるようにする。
	子どもの早期発見・早期	全園児に視診を欠かさず行い、子供の小さな変化に気付	Α	子どもの心身の状態や保護者の養育状況を全職員で打造ない。
対応及び虐待の予防に努めている。		けるようにしてきた。		し、虐待等権利侵害の防止に努めていく。
	1			
の質の向上		自己評価やセルフチェックを行い、保育の振り返りをし		
の質の向上 保育士等が主体的に保育実践の振り返	り(自己評価)を行い、			充実した園内研修を行ったり、外部研修にも積極的に
の質の向上			В	充実した園内研修を行ったり、外部研修にも積極的に 加したりする。